

9月 長月(ながつき)

みなさんは、9月と聞いて何を思い浮かべるでしょうか？

中秋の名月？稲穂？彼岸花？

時を計ったように秋彼岸のころに必ず咲く「彼岸花」。花が先に咲き、花が終わると葉を出すという、不思議な花です。花と葉が同時に出不ることがないことから、「葉は花を思い、花は葉を思う」と言う意味で「相思花」とも呼ぶようです。

根にアルカロイドを多く含む有毒植物で、水田の畦(あぜ)や墓地などに多く見られます。これには理由があるようで、前者はネズミ、モグラなど田を荒らす動物が根の毒を嫌い、避けること。後者は、かつては多くが土葬であったため、死体を動物に掘り荒らされないように、人為的に植えられたということです。

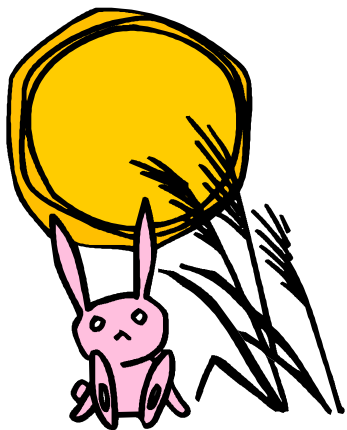
異名が多く、死人花(しびとばな)、幽霊花、狐花、火事花など、ちょっと怖い名前の多い花です。でも、私はこの季節になると、田んぼの少し実りかけた稲穂と、それを縁取る彼岸花の赤色が、何故か懐かしく気持ちが落ち着きます。

燃える炎のようで、また、夜空を焦がす花火にも似て、自然がこれほどまでに美しい形を作ることに脱帽します。

9月は、暑い夏が終わり、涼風が吹き出す秋へと移行する中間的な月ですが、稲穂のそばの彼岸花は、澄んだ高い空によく映えます。本格的な秋、10月の、収穫の喜びを予感させます。

群馬の作況指数は、今年は100%を超えているようですが、被災地の方々、また、原発避難で米が作れなかった方々を思うと、災害の比較的少ない群馬で生活できることに幸せを感じます。

最後になりましたが、お蔭様で小紙も50号を迎えることが出来ました。皆様のご愛顧に感謝するとともに、より興味深い紙面づくりに努めたいと思いますので、これからも宜しく願いいたします。



営業2課・今月の商品紹介

☆ 紙タオル

100枚、200枚パック、ソフトタイプ色々と取り揃えております！
まずはお問い合わせを。

スギウラ株式会社

〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業1課
027-361-5734
営業2課
027-361-5780

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

お気付きの点や質問、疑問などありましたら、ご遠慮なく営業または、下記までお問合せください。

お問合せ
メールアドレス
sg-arai-yoshio
@kamisugiura.co.jp

特 集

- ・ 三菱製紙の現状について・3
- ・ 純白ロールと片艶晒クラフト
- ・ パラフィン紙
- ・ 段ボール
- ・ 長月

三菱製紙の現状について・3

9月になりました。今年の夏も昨年並みに暑かった印象ですが、お盆過ぎくらいから多少暑さも和らぎ、日も大分短くなり、季節は着実に秋に向かっています。

夏が暑く、秋に急に冷え込むと紅葉が綺麗になると言われています。綺麗だというのは良いのですが、そういった気候は体調を崩しやすいもの。折角訪れる過ごしやすい季節を、元気な体で送るためにも、いつも以上に体調管理に気を付けたいですね。

さて今月も三菱製紙の現状について、です。

既報のとおり7月19日より八戸工場の大型抄紙機(コート紙原紙の生産機)1台と、コーター1台が操業再開され、これによりパールコート、ニューVマットの生産が本格化しました。さらに8月にも大型抄紙機が操業を開始し、同銘柄の拡充に向け、体制が整いつつあります。

今後は9月末までに抄紙機全7台中6台、コーター(塗抹機)全3台が稼動を再開し、八戸工場主力製品は震災前の90%、月産62000トまで回復する見込みです。

次にNCR(ノーカーボン紙)ですが、9月中にはN40、50、60、80の生産がほぼ通常通りになります。しかしN100、130はまだ一部生産再開にとどまっています。先月号で黒発色も生産開始と書きましたが、これもまだ

一部であり、色物を含めて本格的な生産開始は10月頃になる予定です。

上質巻取のダイヤフォームは、現在連量90^{キロ}以上のものはほぼ通常通り生産再開されています。それより薄い連量45・55・70^{キロ}は北上工場で試験的に生産されていますが、あまりはかばかしくない様で、未だ少量生産にとどまっています。これらは残る1台・6号抄紙機が11月に稼動次第、本格的に流通再開の見通しです。

さらに今まで話が出てこなかったコピー用紙(PPC用紙)ですが、これも6号抄紙機で生産されるので、同じく11月末頃から生産再開となります。

ところで機械の再稼動が何故1ヶ月毎順番になっているのか、気になったことはありませんでしょうか。これは単純に、修理工の人員不足に起因しているようです。少ない人数で順番に直すので、結果的に約1ヶ月に1台ずつ動き出すようになりました。

上記のように復旧は順調に進んでおり、弊社への入荷も増えてきました。皆様には色々のご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、今しばらくのことと思いますので、何卒ご了承くださいませよう、改めてお願い申し上げます。(A)

営業1課・今月の商品紹介

☆ カーボンオフセット封筒・名刺

封筒・名刺を買うことでCO₂削減に協力できます！
詳しくは弊社営業までお問い合わせ下さい。

純白ロールと片艶晒クラフト

先日、お客様から純白ロール（以下「純白」）と片艶晒クラフト（以下「片艶」）の違いについて聞かれました。実際、何が違うのでしょうか？見た目にほとんど違いがないこの 2 点について、調べてみました。

まず、その用途に違いがあるのでしょうか。純白は、主に包装紙・小さな紙袋に使用され、印刷適正があります。片艶は、主にショッピングバッグ・包装紙に使用されます。こちら印刷適正があります。主だった用途を比べると、両者にほとんど違いは見られません。

基本的には規格として紙の厚みの薄い方が純白で、厚い方が片艶という棲み分けがされています。一部同じ厚みのものもありますが、ただ、ショッピングバックに使われることが多い片艶は、純白よりも NBKP（針葉樹漂白クラフトパルプ）の配合率が高くなっています。紙は、構成する繊維が長いほど繊維同士の結び付きが強

くなり、強度を得られやすくなります。NBKP は繊維が長いので、その配合率が高いほど紙力の強い紙を作りやすくなります。そのため、NBKP の配合率の高い片艶は強度に優位性があります。

紙のサイズでは、純白は四六判（788×1091）が主流なのに対し、片艶はハترون判（900×1200）が主になっています。ですが、片艶には四六判がある銘柄も多いので、「純白を厚くして NBKP の配合を増したものが片艶」として扱って差し支えないようです。

前述しましたが、純白の厚手のもの（50g/m²・65g/m²）と片艶の薄手のもの（50g/m²・60g/m²）は、規格がオーバーラップしています。

紙の選定にお困りになったときは、予算・用途・商品の在庫状況など踏まえてご提案させていただきますので、是非ご相談ください。（K）

パラフィン紙

最近たびたび、パラフィン紙に関するお問い合わせを頂きます。

昔は、パラフィン紙が良く使用されていましたが、今ではあまり見かけなくなりました。そのせいか、パラフィン紙自体ご存知ない方もいるかもしれません。

パラフィン紙とは簡単に言ってしまうと、紙にパラフィン(蠟)を含浸させたものです。ワックス加工(蠟引き)することで紙にバリア性を持たせたもので、主にクラフト紙が加工に適しています。防湿効果、耐油、耐水性、さらに紙全体の厚みや強度も増します。

熱により蠟を溶かし、紙全体に塗ることにより、紙の繊維の間に蠟が染み込みます。それにより、紙に透明感が生まれ、しっとりした質感になります。その独特な風合いは、封筒や雑貨、ステーションナリーとしても魅力的な加工になります。見た目がアンティークでどこか懐かしい雰囲気も感

じさせます。そこへ使い込んだようなしわやダメージを故意に与えると、表面の蠟に細かいひび割れができ、ところどころ白くなり、一層古びた表情に変わります。

印刷・加工については、オフセット印刷・エンボス加工が可能です。が、箔押し加工はできません。(エンボス加工につきましては加工部分が白くなります)

輸出品などにマシン油や防錆油を塗布したあとの包装に適しており、良く使用されていましたが、現在では防錆紙(ぼうせいし)が主流になってきています。

そして、燃やしても紙と蠟なので有毒なガスを排出しません。人に有害な環境ホルモンも含まないませんので、安心してご使用いただけます。

（S）

段ボール(corrugated cardboard)

9月になり、朝晩はだいぶ涼しくなりました。

私の自宅の庭では、蟬の声が聞こえたかと思うと、ユリの花にはトンボが来ています。

旧暦9月9日を重陽の節句、または菊の節句といえます。陰陽道の考え方から、陽の数字、すなわち奇数は縁起のよい数字とされて、陽の数字の最も大きい9が、月日に2つ重なる9月9日は、五節句の中でもかなり重んじられていたそうです。

さて、今回は弊社でも取り扱いのある段ボールについて、少し触れてみたいと思います。

一般に段ボールとは、波状に加工した紙を表裏の紙で挟んで接着し、強度を持たせた構造をしています。さらに多層に加工したものや、波状の紙が表面に出ている片面段ボールもあります。段ボールの名前は、断面の波型が階段状に見えることによると言われています。

段ボールは19世紀のイギリスにおいて、当時流行していたシルクハットの内側の汗を吸い取るために開発されました。のちに包装資材として利用されるようになったのは、アメリカにおいて、ガラス製品の包装に使用されたのが始まりとされています。日本において『段ボール』という言葉を作ったのは、レンゴー株式会社の創始者、井上貞治朗です。井上貞治朗については、最後にご紹介致します。

本来の意味の段ボールとは、段ボールシートのことを指します。これは、ライナー（段ボールの外側の紙）とライナーの間に波状に加工した中芯をはりつけたシート(板状のもの)のことで、様々な段ボール製品の素材になります。

中芯の山の大きさは、現在6種類ほどあります。一般に使用されるのは、A段・B段といわれているものです。また、E段といわれる波の小さい、板の高さの低い物で、お菓子の箱などに使われるものもあります。段ボールシートの用途は一般的に製函用途ですが、緩衝材やコンクリートパネルにも使用されています。輸出梱包には、AAAフルート、AAフルートなど特殊な段ボールが木箱や鉄枠の代わりに使われることがあります。

段ボール箱は、段ボールシートを素材とする箱で、軽さと強度、衝撃吸収性、利便性などから広い分野で使用されています。蓋を折り込むことで箱だけでも組み立てられますが、クラフトテープ、布テープ、OPPテープなどの粘着テープ（全て弊社で取り扱っております）を使用することが大半です。

段ボール箱の応用で、内側にポリエチレンなどの合成樹脂で作った袋を取り付け、液体包装に用いるバックインカートンという容器も作られています。

段ボールの印刷はもちろん、箱からさらに加工を必要とするものまで、なんなりと弊社営業までご相談下さい。

※井上貞治朗【いのうえさだじろう】

1882年、兵庫県生まれ。高等小学校を卒業後、進学がかなえられず転職と放浪の青年期を送る。さまざまな経験から経営者になることを目指し革命的な梱包材の発想を得る。失敗を乗り越え「段ボール」の実用新案特許を取得。大量生産とパッキングケースの開発に成功し『レンゴー株式会社』を設立。本格的な段ボールメーカーとして世界に躍進した。1963年、没。